

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：32601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720103

研究課題名(和文) 曲亭馬琴の治国思想と歴史認識

研究課題名(英文) A Study of Kyokutei Bakin: Recognition about the governing principle of nation and history

研究代表者

大屋 多詠子(OYA, Taeko)

青山学院大学・文学部・准教授

研究者番号：50451779

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：主な研究成果としては、以下の3つがある。第一に、馬琴の「日本魂」という語の利用法に着目し、崎門派の垂加神道の影響を受けた可能性を見出すとともに、「武の国」についての認識の検討を通して、馬琴の治国思想が作品にいかんにか反映されているかを考察した。第二に、馬琴が読本『椿説弓張月』執筆の際に利用したと考えられる、近松門左衛門の異国渡航を扱った浄瑠璃を指摘し、その使用方法に馬琴の異国意識・国境意識が見られることを確認した。第三に、読本における古代の神話の利用について調査し、その方法の検討を通して、馬琴の古代史に対する歴史認識について考察、口頭発表を行った。これについては、論文化を準備している。

研究成果の概要(英文)：We had three main results regarding Kyokutei Bakin's recognition about the governing principle of the nation and history. Bakin is a popular novelist in the latter period of Edo. First, we paid special attention to the term "Yamato-damashii," Japanese traditional spirit, in his novels. This fact should indicate that Bakin was affected by "Suika-shinto" of Ansai Yamazaki. Then we examined the governing principle of the nation from the term "Bu-no-kuni" and its influence on his stories. Second, we studied Bakin's recognition of Japan and foreign countries in one of his most important works, "Chinsetsu-Yumihariduki," considering several episodes modeled on "Joruri"s by Chikamatsu-monzaeon, a writer in the former period of Edo. Finally, we examined Bakin's use of Japanese mythology in his works, in order to elucidate his recognition of Japanese ancient history.

研究分野：日本近世文学

キーワード：日本文学 江戸時代 曲亭馬琴 歴史認識 治国思想

1. 研究開始当初の背景

(1) 馬琴が儒学・仏教・神道、老荘、国学等の影響を受けていることは良く知られている。しかし馬琴が各々の思想を吸収・消化した結果、作中ではそれらが渾然一体となっており、すでに馬琴独自の思想が形成されている。そのため、諸々の思想が馬琴に与えた影響の全容を把握することは容易ではなく、その詳細は未だ十分に明らかにされたとは言いがたい状況下にあった。

(2) 馬琴のこれらの思想は、神仏や国家の在り方、過去の政治の是非を論じる場面に表出することが多く、馬琴の治国思想や歴史認識を取り上げることで、馬琴の思想形成の様相を掘り下げることが可能になるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

(1) 研究の目的は、具体的な作品分析を通して、馬琴が理想とする治国がどのようなものであったのかという点について検討することにある。また、その理想に対して実際の歴史に対する馬琴の認識がどのようなものであったかについて分析することであった。

(2) (1)の分析の結果を踏まえ、儒・仏・神を消化したその思想がどのように形成されたかについて考察することを最終的な目的とした。

3. 研究の方法

(1) まず、馬琴の治国思想について、崎門派の垂加神道という切り口から分析を試みた。山崎闇斎は元僧侶であり、神道に朱子の教えを取り入れた。これが垂加神道であり、馬琴の作中に表出する儒・仏・神等が一体化した思想と共通性が見いだせる。この点に注目して、馬琴作品の分析を試みた。

(2) 次に、尊皇思想に着目した。水戸学の影響は既に指摘されているが、一方で勤王の志を持っていたかという点については、否定されてもいる。ほぼ同時代ではあるが、正確には水戸学よりも馬琴がやや先行するようである。水戸学に先行する馬琴の尊皇思想は垂加神道の影響によって説明できるのではないかと、分析を試みた。

(3) 最後に、作品の詳細な分析を通して、理想の治国思想に対する馬琴の実際の歴史認識の検証について試みた。読本というジャンルは歴史小説でありながら、その作品背景に選り取られた時代の馬琴の歴史認識については、論じられることが少ない。そのため、馬琴が執筆に際して用いた地誌や史籍等の利用を踏まえつつ、作品に表出した馬琴の歴史認識について考察を試みた。

4. 研究成果

(1) まず、発表ならびに図書に発表した論文「曲亭馬琴の「武国」意識と日本魂」において、馬琴の治国意識・尊皇意識を探った。

具体的には、日本意識についての言表のなかから、「武の国」と「日本魂」という表現に着目した。一般的に、「武国」観念は神道に連なるもので、「文」たる儒教を否定する傾向にある。しかし、馬琴は文武両道を重んじ、さらには神の教えは儒教に等しいとまで解釈する点に大きな特徴がある。基本的に、いわゆる「武国」観念は「武威」と勇武の資質をその主な内容とするが、馬琴は、「武威」よりも仁政を重んじ、また勇武の資質とされる「日本魂」を儒教の「忠孝」と同一と考えた。馬琴の「武の国」とは、神儒一致の思想の上に見られる自国優位意識といえる。

また『南総里見八犬伝』には、唐崎士愛と日本魂を結びつける表現も見られる。馬琴は山崎闇斎門下で垂加神道を学んだ唐崎士愛をさりげなく評価しており、馬琴の神儒一致の思想には、垂加神道からの影響が看取できる。

(2) 次に雑誌論文では、『椿説弓張月』における近松門左衛門の浄瑠璃利用を論じ、その利用方法に、馬琴の異国意識・国境意識を探った。

具体的には、『百合若大臣野守鏡』『大職冠』『国性爺合戦』『本朝三國志』と趣向が共通することを指摘し、馬琴がこれらの作品を踏まえて『椿説弓張月』を執筆していたことを確認した。特筆すべきは、これらの近松作品がいずれも、異国渡航を扱った作品であることである。馬琴は為朝の琉球渡航の伝説に拠って『弓張月』を執筆するという段になって、近松の異国渡航を扱ったこれらの作品群を参考資料としてまとめて読み直したのである。『弓張月』執筆・刊行時の文化三・四(一八〇六・〇七)年には、北方ではロシアが蝦夷の番屋を襲撃するという事件が起きた。

「異国への危機感を、異国への優越感に転化した小説を無意識のうちに欲していた」当時の状況下で執筆された『弓張月』は「異国との緊張を意識した作品」の一つであると指摘がある。また文化三年には琉球の謝恩使が来朝してもいた。右に挙げた近松の作品は、ちょうど正徳元(一七一)年と享保四(一七一九)年の二回の朝鮮通信使の間に上演されたものであり、その訪朝の影響を受けてもいる。近松も馬琴もこれらの使節の訪朝を当て込んでいたのである。『国性爺合戦』以降の作品には日本優越意識が見られるとの指摘がある。馬琴もまた異国への緊張が高まったこの時期、近松のこれらの浄瑠璃に日本優越意識を読み取っていたのである。

(3) 第三に、発表 では、馬琴の考証随筆ならびに、『椿説弓張月』をはじめとする読本における古代の神話の利用方法(例えば日本武尊の神話等)を中心に、古代史に対する歴史認識について考察を行った。なおこの発表については、図書 で、論文化を準備している。

(4) また、雑誌論文 では、本研究の副産物として、『犬夷評判記』に見える馬琴の「小大の弁」という言葉について、小説技法の側面から論じた。この言葉が『南総里見八犬伝』の冒頭場面において、小たる鯉を釣り上げなかったことから大である国を得た、という文脈で用いられていること、また他に、馬琴には小国大国についての言及もあるところからこの言葉に着目したが、結論としては、この言葉は小説技法として用いられた語であった。「小大の弁」とは、本来、『莊子』に基づき、「小知は大知に及ばず」とあるように、智恵や人物の大小の区別を論じる際に用いられる。また馬琴は『烹雑の記』においては「小をもて大に易」として『孟子』の生け贄とする牛と羊の大小について取り上げる。ここで問題の要は実は牛と羊の大小ではなく、死を恐れない羊を牛に代えるべきとの王の仁心を説いたものと馬琴は解釈する。王たる資質に仁を求める馬琴の考えは、日本を「武の国」と見做しつつも、「武威」よりも仁政を重んじる姿勢と通じるものがある。これらの中国の故事を踏まえつつも、馬琴の「小大の弁」は、因果論的な大小の得失と絡めることで、小説技法を指す言葉として独特の使い方をしていることを指摘した。

(5) 馬琴の国境意識の検討の過程で、馬琴の地誌利用状況の調査を行ったが、その副産物として、論文 では、『月氷奇縁』で地誌『江戸砂子』の記事に基づいて書かれた趣向について指摘した。本論考では主に『南総里見八犬伝』の政木狐の造型を手がかりに、馬琴の考える狐のイメージと馬琴自身の稲荷信仰について取り上げ、政木狐の趣向に取り込まれた『吾仏の記』の記事について指摘した。その際、作中における妻恋稲荷の重要性を確認し、馬琴自身もまた妻恋稲荷を鎮守とする地に住んでいること、日頃の参詣の詳細などについて『馬琴日記』の記述を手がかりに調査した。この妻恋稲荷は、馬琴がしばしばその神話を作中に利用する日本武尊を祭神としており、創作においてのみならず、日常の生活においても、身近に古代の神話との関わりが覗えることが興味深い。これに関連して黄表紙というジャンルに表れた馬琴の日常について発表 を行った。

(6) その他、馬琴は読本の作中ならびに、日常生活で占いを利用していることがすでに指摘されているが、占いは治国とも深い関

係にある。このような観点から、占いを重要な趣向とした馬琴の黄表紙、『安倍清兵衛一代八卦』の翻刻と注釈を行い、発表した(論文 )

(7) その他、発表 、 、 ~ では、客観的に馬琴の思想を捉える為に、馬琴以外の作者による文政期読本の調査、読解を並行した。その成果の一部として、図書 で、『檀風物語』『絵本輪廻物語』『絵本双忠録』『金鈴橋双史』『四季物語』『楠家外伝弥生佐久羅』六作品の解題を完成させた。また六作品のうち、馬琴読本の影響を受けた『楠家外伝弥生佐久羅』を取り上げ、論文を執筆した。本作の出版状況、当時の江戸・大坂の歌舞伎作品を踏まえていること、山東京伝・馬琴作品を意識した趣向が多用されていることなどを指摘した。また本作が上方で出版された当時、上方では、馬琴作品の歌舞伎化が頻繁に行われており、江戸読本の影響を受けた本作が上方で刊行された意義について論じた。

#### 引用文献

佐藤悟「名主改の創始 ロシア船侵攻の文学に与えた影響について」『読本研究新集』第3集、2001、161-182。

韓京子「近松の浄瑠璃にあらわれた日本優越意識」『国際日本学』第八号、2010、151-164。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

岡島由佳・藤嶋ゆかり・大屋多詠子、『安倍清兵衛一代八卦』翻刻と注釈、緑岡詞林、査読有、40号、2016、100-136

大屋多詠子、馬琴と近松、読本研究新集、査読有、7集、2015、64-79

大屋多詠子、曲亭馬琴の「小大の弁」、日本文学、査読有、64巻4号、2015、66-70

大屋多詠子、『八犬伝』の政木狐と馬琴の稲荷信仰、朱、査読無、57巻、2014、223-242

[学会発表](計 8 件)

大屋多詠子、曲亭馬琴の 日常、青山学院大学文学部フランス文学科・青山フランス文学会共催国際シンポジウム、日常 とは何か 西欧の場合、日本の場合、青山学院大学、2015.12.6

大屋多詠子、馬琴の古典再解釈、「近世」とは何か - 世界史的考察 -」研究プロジ

エクト研究会、青山学院大学、2015.10.21

大屋多詠子、『四季物語』、西日本近世小説研究会(よみほんの会)、尾道市立大学、2015.3.29

大屋多詠子、文政八年刊『絵本双忠録』、西日本近世小説研究会(よみほんの会)、九州産業大学、2014.3.23

大屋多詠子、曲亭馬琴の日本魂と「武の国」、法政大学国際日本学研究所、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成22年~平成26年)「国際日本学の方法に基づく 日本意識 の過去・現在・未来」研究アプローチ 「日本意識 の変遷 - 古代から近世へ」ワークショップ「和の国? 武の国? 神の国?」、法政大学、2014.3.16

大屋多詠子、文政二年刊『絵本輪廻物語』、西日本近世小説研究会(よみほんの会)、山口県立大学、2013.8.31

大屋多詠子、文政十二年刊『檀風物語』、西日本近世小説研究会(よみほんの会)、尾道市立大学、2013.3.30

大屋多詠子、文政七年刊『弥生佐久羅』、西日本近世小説研究会(よみほんの会)、島根大学、2012.9.15

〔図書〕(計 3 件)

青木敦・武内信一・狩野良規・渡辺節夫・秋山伸子・佐伯眞一・大屋多詠子・岩田みゆき、慶應義塾大学出版会(予定)、近世とは何か - 人文学のクロスポイント、2017、280(40 予定)

田中則雄・藤沢毅・菊池庸介・木越俊介・菱岡憲司・大屋多詠子・天野聡一・三宅宏幸・中尾和昇、遊文舎、文政期読本の基礎的研究、2016、115

田中優子・大木康・横山泰子・米家志乃布・小林ふみ子・JANA URBANOVÁ・内原英聡・小口雅史・竹内晶子・石上阿希・韓京子・大屋多詠子・金時徳・林久美子・福田安典・長島弘明・津田眞弓・川添裕・笠間書院、『日本人は日本をどうみてきたか 江戸から見る自意識の変遷』、2015、248

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大屋 多詠子 (OYA Taeko)  
青山学院大学・文学部・准教授  
研究者番号：50451779

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：